

読書でビジネス力をアップする(第70回)

「知性の地図」を知る最初の1冊を指南！

2021.03.04



本には読む順番がある
齋藤孝 著、クロスメディア・パブリッシング(インプレス)

本の読み方を教える本です。特に、読む順番の大切さとその方法が分かります。物事には順番があり、読書についても同じです。それなのに、このことに触れることはあまりありませんでした。

そのため、最初に難解過ぎる本を手にしてしまい、内容がまったく理解できないまま挫折、その分野に対する関心そのものをなくす人が少なからずいます。もったいないことです。

それを避けるには、読む順番を意識することだと著者は言います。理解のレベルに応じて本を選び、順を追って読み進めていくことで、無理なく教養を深めることができるといい、その方法を教えます。

なお、本書が対象にしているのは、哲学や文学、科学などの学問の分野です。これらの分野では、まずガイドブック的な本で頭の中に「知性の地図」を描いてから、次の本に進むべきだといいます。

例えば「経済を学びたい」と、いきなり『資本論』を読んでも理解できません。まずガイド本で全体像をつかみ、新書などで基本を学び、その上で専門書に進むなどが必要です。

このように、読む順番の大切さを説いた上で、最初の1冊の選び方を解説、哲学、科学、歴史など「ジャンル別」さらに夏目漱石、太宰治、ニーチェなど「作家別」の読む順番を解説します。

本書が勧める順番で読めば、読書の質が大きく変わると思います。その結果、吸収できる知識・教養が倍増します。これを習慣にすれば、おのずと教養が広がるはずです。というわけで、これから読書を始めたい人はもちろん、これまで本を読んできたものの「あまり身に付かない」「理解できず挫折した」という人にもオススメです。

知識や教養を身に付けるには、やはり読書が何より大事です。そのことは、学校でも強調され、これまでも散々読んできたはずです。ところが、なぜか本の読み方については教わった記憶がありません。

その結果、多くの人が、試行錯誤しながら自己流の読み方を編み出し、読んでいます。しかし、中にはその過程で挫折してしまう人もいます。

「〇〇入門」のわなに引っかからないために… 続きを読む